

進路だより

第1号



令和4年 4月 8日

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

◇74回生の進路状況

令和4年3月卒業の74回生の進路状況は、以下の通りとなりました。

★国公立大学合格（延べ）102名

（総合・学校推薦型39名、前期日程53名、中・後期日程10名）

★私立大学合格（延べ）174名 ★短期大学合格（延べ）11名

★専門学校合格（延べ）37名 ★公務員3名、自衛隊2名、就職6名



◇合格体験記

今号では、進路目標を達成した卒業生の合格体験記を紹介します。成功例や失敗例などを参考にして、目標達成の手がかりを探してみてください。

青森県立保健大学 健康科学部 看護学科合格（学校推薦型）

「推薦は大変です。」

私が推薦入試の準備を始めたのは2年生の3月頃でした。インターネットや書籍だけでは得ることができない情報を入手し、志望動機で独自性を出せると思い、八戸市立市民病院の院長に手紙を通してインタビューしました。その中で、他の県には見られない青森県独特の課題や、今後どのような医療形態になっていくのかなどの情報を教えていただくことができたので、この取り組みは志望理由書作成にあたりかなり役立ちました。

小論文対策は、小論文指導をしてくださる先生から出される課題の他に、自分で様々な医療系大学の小論文の過去問を片っ端から調べて40テーマほどの問題には対応できるようにとにかく解きまくりました。小論文は本番までにどれだけ問題数を解いたかが重要になってくると思います。私は小論文が苦手でしたが、多くの問題を解いていたことで受験当日は初見の問題でもこれまでに解いてきた問題に対する自分の考えを汎用させて書くことができました。

作文対策は、作文自体が1年前からの受験項目で、「主体性・協調性・多様性に関することを出題」としか提示されていなかったため、対策の仕方がわかりませんでした。だからとりあえず、主体性・協調性・多様性をアピールできる経験をまとめて作文を自分なりに書き、担当していただいた手嶋先生に自分から添削してもらいに行きました。本番は昨年の出題の仕方と大幅に変わってしまったため、準備していた内容はあまり使えませんが、手嶋先生から教えていただいた点数の取りやすい作文の書き方を活かすことができました。

私が推薦入試にあたり一番苦労した点は学習面との両立です。私の場合、部活動引退が7月末で他の人と比べて受験に本腰を入れるのが遅かったため、出遅れているという焦りがありました。推薦入試の対策をしながら、5教科の勉強をしていかなければならないことが、覚悟はしていたものの、正直、本当に辛かったです。休日は1日の勉強時間の半分を推薦入試対策で、もう半分を5教科の勉強としていました。しかし、平日の学校が終わってからの公共施設での20時までの勉強と、家に帰ってからの3時間ほどの勉強はすべて推薦入試対策にしか手が回りませんでした。だから、5教科の勉強は授業の中だけで理解を定着させて、それを休日に1週間分復習していくという形で学習していました。

これから推薦入試を考えている方は、自分が周りに流されない人間であると思うなら推薦入試にチャレンジしてみてもいいと思います。推薦組が一生懸命対策している時期はまだクラスの空気は受験モードではないため、周りがそのような雰囲気でも流されずに自分のやるべきことをこなせる人が推薦入試は向いていると思います。頑張ってください。

静岡文化芸術大学 文化政策学部 芸術文化学科 合格（学校推薦型）

「夢への挑戦」

私が本格的に進路をこの大学に決めたのは夏でした。集会が行われ、そこから本格的に動き出したと思います。試験科目は小論文と面接でした。私がやった対策は、大きく言えば「いろんな人に話を聞くこと」、この一つです。

最初に行ったのは、インタビューでした。8月の終わりごろに、八戸市民劇場と市役所の文化創造推進課に電話でアポを取り、市役所の方には質問事項をあらかじめメールでやり取りしたうえで、インタビューへ向かいました。市役所の方は特に、美術館担当の方、はっち担当の方、推進課の方の三名からお話を、まだオープンしていない美術館の中で案内も含めながらインタビューを行いました。質問は、「企画から実際にイベントを起こすまでの流れ」、「八戸市の芸術支援状況についてどう考えているか」など10個ほどと、その場で出たものに答えていただきました。この経験が、志望理由書の深く掘る部分につながっていったと思います。志望理由書では、こうしていきたいと理想を書くのが一般的です。この理想に現実的な知識を少しでも足して深めていけば、読み応えのある文章につながっていくと思います。また、その上で6人の先生方に添削をしてもらい、直していただきました。

次に面接です。私の大学では、志望理由書について深く聞かれることが過去の先輩たちのデータで分かっていました。なので、担当の先生や友達に「あなただったらこの志望理由書を読んでどこを質問するか」を聞きました。そして、答えを自分なりに考えたり、調べたりして準備し、確実にこたえられるように準備しました。面接練習も、できるだけいろんな人とやりましょう。それぞれ雰囲気が違うし、面接官はどんな人間か分からないので。また、パターン化しないように気を付けた方がいいです。いつの間にかロボットみたいになって、人間性が見えなくなります。志望理由は面接では聞かれないところもあります。

小論文は「ひたすら解くこと」、これしかありません。傾向を見極めたり、必要な知識を兼ね備えておかないと太刀打ちできません。私は受験の月に入ってからやり始めました。ぶっちゃけ遅すぎました。書き方の基礎がある程度身に付けていたからよかったものの、もしそうじゃなかったら本当に間に合わなかったと思います。これも、面接と同じように、自分の考えが見つからなかったら人に聞いていました。

一人でやろうとせずに、いろんな人を頼ってください。受験は個人戦ですが、助け合いです。仲間を積極的に有効活用です。

最後にできたら、自分が人前で緊張したらどうなるか知っておいてください。私は流ちょうに喋り出すタイプでした。友達には、黙り込んでしまう人もいます。また、体力が必要です。わたしは新幹線（5時間）酔いで当日フラフラでした。万全の準備のためにも、体力は大事です。

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科（一般前期）

「大学受験を終えて」

私が今、長いようであつという間だった大学受験期を終えて思うことは、自分の満足度だけで学習を進めてはいけないということです。最終的に大事なのは、自分が苦手な分野を克服できているかということや、模試なども含めたテストの点数などの結果なのです。あくまでも学習というのは過程なのです。「今日は8時間も学習したから十分」ということが通用するとは限りません。結局、結果が思うように伸びなければ、学習の方法を見直す必要があります。私は特に、現代文が苦手で、同じ問題を何度も解いてみたり、焦って小説を読み始めたりしましたが、共通テスト1ヶ月前になっても、過去問や模試で満足のいく点数がとれませんでした。そこで、現代文が得意な友達数人にいつもどのように解いているかを聞いてみたところ、解き方に何パターンかあることがわかりました。そして、全部試してみても自分に合った解き方を見つけることができ、少しずつ点数も安定してとれるようになり、共通テスト本番も目標の点数は超えることができました。学習を積み重ねている自分に満足するのではなく、学習の質を見直し、意味のある学習をするように心がけましょう。

もう一つ大切なことは、予想外なことが起こると思っておいた方がよいということです。自分の得意教科で本番も点数を稼ごうと、その教科にばかり力を入れて学習するという人がいますが、その教科がとて難化したら…？ほかの教科もしっかりやっておくべきだった…と後悔したときにはもう遅いのです。また、共通テストで思うように点数がとれなくても二次試験が終わるまではやれることをやるという根気強さを持ちましょう。私は共通テストの自己採点結果が良くなく、今まで目指していた大学の合格はかなり厳しいという状況でした。そのため、今まであまり視野になかった大学も視野に入れて、合格の可能性が少しでもあり、かつやりがいを感じて学習に取り組みそうな大学を探し、改めて進路探求をするような感じで、短期間でできることを全力でやりました。もちろんその間はずっと不安で、前向きな発言よりも弱音を吐くことの方が多かったように思いますが、応援してくれる親や友達がいる、時間を割いて二次試験の対策を手伝ってくださる先生方がいたので、最後までやりきることができました。そして、辛いのは自分だけではないことを覚えておきましょう。みんな一緒に頑張ってきた仲間です。とにかく、ありきたりな言葉かもしれませんが大切なことは「最後まであきらめない!!!」。

弘前大学 医学部 保健学科作業療法学専攻合格（一般前期）

「無駄じゃなかった積み重ね」

私は1年生のころから定期考査には特に力を入れてきました。ワークは何周も解き、単語をとにかく頭に叩き込みました。考査週間は平日5時間以上、休日10時間くらい学習しました。そのため考査の成績は悪くはありませんでした。しかしその反面、模試の結果はすこぶる悪く、志望校判定はずっとE判定でした。頭の柔軟性が無く、考査で見たことがある問題しか解くことが出来なかったのです。皆さんの中にも私と同じような人がいると思います。しかし今思えば、考査に全力を注いだことは無駄ではなかったのかなと思います。考査対策である程度の基礎学力は身につけていたため、それほど受験勉強に後れを取らなかったと思います。また、私は努力すれば点数として返ってくるということを考査のたびに経験していたため、点数に伸び悩む時期もめげずに学習に打ち込むことが出来ました。

次に私が受験勉強を始めてからやっていたことを紹介します。1つ目は「質より量作戦」です。前記したように、私は見たことがある問題しか解けなかったため、出来るだけ多くの問題に触れるように、学習時間を第一優先にしました。学校が終わったらすぐにはおちに行き20時まで学習する生活を続けました。また電車の中では単語の暗記を繰り返し、昼食中も片手を空けて学習できるようにおにぎりを作ってもらいました。二次試験対策では過去問17年分を3周しました。学校に少し早く来て30分学習するのもおすすめです。2つ目は「周りの力を借りる」です。分からない問題は友達にとにかく質問しに行きました。学校帰りは友達と話をして気分をリフレッシュさせたり、互いに学習状況を確認して自分の学習の進捗状況を図ったりしました。

最後に、皆さんには頭の柔らかい人になって欲しいです。私は頭が固い分勉強量で何とかしましたが、それには限界がありますし、それを身をもって体験しました。皆さんにはまだ時間があるため、作題者の設問の意図は何か、別解はないのかなど、考える訓練を積むことを強く、強く勧めます。練習すれば初見の問題でも過去の問題と結びつけて解くことが出来ると思います。（私はその訓練を積み始めるのが遅かったと思います。）私の経験が誰かの役に立つことを願っています。頑張ってください！応援しています！！

日本原燃株式会社（事務職）合格

将来はこれをやりたいという風に決めている人は、実はそんなに多くはないと思う。私自身も、正直特段やりたいことは無かったのだが、家庭の状況などを自分なりに考えた結果、県内に就職するという道を選ぶに至った。

就職試験の練習で重きを置くべきなのは、やはり面接練習だろう。自分の自信にもつながるため、何度も行う必要がある。先生が声をかけてくれるだろうではなく、自力で交渉することが当たり前だと考えよう。自分のために、自分で動くという考えをもつようにすべきだ。

受験本番で気を付けていたことは、堂々としているように見せることだった。自信がなくても、堂々としていればなんとなく余裕ができる、というのは、母が再三私に説いていた言葉だ。嘘も方便というが、自分に嘘をついてみるのも受験では一つの手だと思う。そして、面接本番では一生懸命さを全面に押し出すことが重要だ。受験の面接共通で、面接官は、受験生が何を答えるかではなく、どう答えるかを見ている。答えるのに困るような質問をしてくるのはそのためだ。志望理由などを応答できないと印象は悪いが、わからないと言うことが落とされる要因にはならない。面接では、真摯に一生懸命向き合う態度が大切である。

私の場合、事務部の受験倍率は、国公立大学の倍率平均と同じかそれ以上の倍率であった。高卒就職も合格できないという可能性があり得るという点では、進学と同じといえる。しかしここで後輩の皆さんに伝えたいのは、落ちる＝失敗ではないということだ。努力した結果、受験が上手くいかないことが仮にあるとしても、努力の跡は必ず残り、誰かが見てくれている。悩んで努力をして、進路が決定した時は、その努力を見てくれた人に感謝することを忘れずに。

最後に、これから受験に向かう後輩の皆さんへ。急がずに、しかし休まずに、進もう。みなさんが進む道の先に、確かな希望があることを願う。